

責任から感じた仕事の印象

Y大学大学院：創成科学研究科・農学系専攻・1年

期間：令和4年8月22日～26日（5日間）

私がインターンシップに参加したのは実際に働くことを身近に考えられるようになりたかったからです。学部生時代にインターンシップを経験せずに就活に臨んだ際、自分の将来像が想像できず社会人になることに怖気づいてしまいました。もちろん研究を続けたくて大学院に進学しましたが、就職からの逃げ道として選んだ側面があることを否定できません。そのうえで、インターンシップ先にコンサルタント会社を選んだのは、自分の研究分野を仕事として活かせる可能性を感じたからです。DNA関係の研究をしている身としては就職しても自分が大学で学んだことを活用できると思っていませんでした。恥ずかしながらインターンシップの募集を見るまで、建設コンサルタントという職種があることも知りませんでした。己の見識や世界を広げるためにも今回のインターンシップに参加してよかったと思っています。

インターンシップ初日はとても緊張していましたが、社員の方が優しく声をかけてくれたこともあり、会社のこと、仕事の流れについて教えてもらっているうちに緊張が興味に変わっていきました。仕事の結果に驚くとともに、それをつくりあげるためにどれくらいの人に関わるのかと、会社として働くことのイメージができるようになりました。また安全教育をうけて、企業として安全確認をすることの重要性を知って、仕事についてよりリアルに感じるようになりました。

実際の就業体験として、初日の午後から5日間で環境DNAのサンプリングから解析までを行いました。DNAについては学んでいましたが、環境DNAのことはよく知りませんでした。そのため、DNAの抽出や増幅などのひとつひとつの実験工程の意味や作業はわかっているにもかかわらず、インターンシップが始まるまで分析結果から生息する生物種やその分布を調査できると知りませんでした。普段自分は室内にこもって実験をしているのでサンプリング自体も、また水からのDNA抽出に必要な前処理なども初めての作業で新鮮でした。普段自分が行っているPCRや実験器具の扱い方の違いも興味深かったです。大学の実験室と違い、サンプルの保存や使用済みチップの処理、実験工程を部屋ごとで分けるなど、ミスが起こらないように厳密に実験が行われており、企業として分析を行う際の責任を肌で感じました。また、自分の研究では外部施設に委託していた次世代シーケンサーを自分の手でやる事で、自分が仕組みをちゃんと理解していなかったことを知りました。大学にはない新しい機械や分析方法、環境DNA自体が、以前までの実験操作や調査を簡便にしてくれていました。しかしそれゆえに、使いこなすために仕組みを理解する必要があること、また、あくまで環境DNAの分析結果を精査するためには現地現場の知識が必要不可欠であることも同様に、つかう人も進化しなければいけないと教えてくれました。

インターンシップを通して、自分が将来働く姿をイメージしやすくなり、選択肢が広がりました。さらに自分が現在行っている研究が活かせるかもしれないと知ること、大学での学びに対するやる気がわきました。今回お世話になった方々に感謝申し上げます。

インターンシップでの貴重な体験

Y大学：工学部・応用化学科・3年

期間：令和2年8月31日～9月11日（5日間）

私は、産業技術センターの食品技術グループで、インターンシップに参加させていただきました。学校での授業を学ぶうちに、微生物が関係するような分野に興味を湧いてきたため、実際の現場で自分の目で見て体験することでより深く学びたいと思い、今回インターンシップで仕事を体験させていただきました。学校では機器の原理や微生物学の授業を少し学んだだけの状態での今回の体験であったため、多くのことをこのインターンシップで学ぶことができました。

初日は、仕事内容や研究内容の話の聞いたり、機器の見学をしたりしました。他にも、寒天培地の1つである斜面培地(スラント)を作ることもしました。寒天培地といえば平板培地のイメージを持っていましたが、そこで斜面培地というものを初めて知りました。

2日目は、賞味・消費期限を設定する際に行う保存試験のうち微生物試験のやり方を教えていただき、実際に体験しました。一般細菌数を調べるために標準寒天培地を、大腸菌・大腸菌群の数を調べるためにXM-G寒天培地を作成し、調べる菌によって使用する寒天の種類を変えて作るということを知りました。また、微生物や菌などを扱う操作は、他の周りの菌などが入ってしまうコンタミが起こらないように気をつけなければならないため、器具などをオートクレーブで滅菌し、クリーンベンチという装置内で無菌操作を行うことが重要であるということが学べました。このクリーンベンチ内で操作を行うのはとても緊張しましたが、いい経験になりました。

3日目は、FT-IRと電子顕微鏡を使って、サンプルを分析しました。それぞれ使い方を教えていただきながら、FT-IRではサンプルの有する結合を調べ、その結果からどのような物質かある程度見当をつけ、電子顕微鏡ではサンプルを構成する元素を特定することができました。

4・5日目は、微生物の培養・管理や観察について学び、その際に平板培地や初日に学んだ斜面培地など、使用目的に応じて培地のメリット・デメリットを考慮しながら、種類を変えることが必要であると分かりました。また、2日目に学んだ以外の培養方法であるコンラージやニードルを用いた方法も体験しました。このように培養の仕方を変えたり、培養する環境条件を変えたりすることも、微生物の種類や培養目的などに応じて行われているということを知りました。

今回、微生物学で学んだ培養技術や殺菌技術などが実際の現場でどのように使われているかを自分の目で見て体験し、普段の授業だけでは学べない貴重な経験もさせていただき、より知識を深めることができました。原理しか知らなかった機器の使い方も学ばせていただき、授業で原理を学ぶだけでなく実際に自分で使ってみる学生実験も今後活かせるように大切にしていこうと改めて思いました。実験以外の授業の一見関係がないように感じていた内容が必要になるという場面があるということを感じたので、どのような授業も真剣に取り組んで、より多くの知識を身に着けたいと思います。

今回のインターンシップで学び、体験したことを今後の学校生活や将来に活かしていこうと思います。お世話になりました皆様、本当にありがとうございました。

税理士業務と人工知能

Y大学：経済学部・経営学科・3年

期間：令和元年8月29日～9月4日（5日間）

私は、今回インターンシップに参加させていただき、税理士業務はなくなることはないと感じることができました。なぜなら、近年、税理士の主な業務内容である簿記・会計監査は人工知能の発達によって人工知能に仕事を奪われると言われていています。しかし、それは人工知能を扱う経営者や経理担当の簿記や税法の理解については反映されていないからです。

今回のインターンシップでの体験内容は、架空の企業の帳簿確認から始まり、税務申告書の作成を行いました。その中で、領収書一枚を確認するにも関与先の企業がどのような事業活動を行っているかによって、費用処理が異なるということも学ぶことができました。例えば、同じ茶菓子代だとしても誰が茶菓子を食べたかによって、費用処理の方法が異なります。このように、領収書一枚の背景を考えて仕訳を切るとは、知識と蓄積された経験から判断できることであり、人工知能では難しいことだと所長はおっしゃっていました。また、私は高校生の頃から簿記の勉強をしてきましたが、税法の理解がないため、分からない部分が多くありました。自身の知識不足を実感するとともに、簿記や税法の理解が十分でない方が経理を行うのであれば、人工知能が発達しても、税理士業務はなくなることはないと感じました。

最終日には、所長や事務員の方に人工知能と税理士業務について質問させていただきました。「人間にはあいまいさがあるが、人工知能にはない」「人工知能の活用によって業務が少し楽になり、その空いた時間でコンサルティングなど今までできなかった業務ができるようになる」等、実際に活躍されている方々の考えを知ることができました。そして、簿記や税法の勉強をするだけでなく、コミュニケーション能力を身につけることやあらゆる業界の経済実態を知ることが大切だとわかりました。また、人工知能を上手く活用し、関与先の企業・経営者に寄り添ったサービスを提供できる税理士になりたいと考えるようになりました。

今まで税理士試験の勉強しかやっていませんでしたが、今回のインターンシップで実際の税理士の方がどのような仕事をしているのか知ることができました。この貴重な体験によって、改めて、税理士になりたいという気持ちを強くし、来年の税理士試験に向けたモチベーションを高めることができました。また、勉強だけではなく、大学在学中にコミュニケーション能力が向上するように様々な人と話したり、あらゆる業界の経済実態を知るために新聞やニュースを見たりするなど、社会人として必要な能力や知識を身につけようと思います。

今回、インターンシップに参加させていただき、税理士になりたいと思うようになったところからの疑問だった、税理士業務と人工知能について一つの答えを見つけることができました。これからも時代とともに状況は変化していきますが、人工知能を上手く使いこなして、人間である税理士しかできないことを大切に、お客様に寄り添った税理士になれるよう努力します。

社会人としての常識

U高等専門学校：経営情報学科・4年

期間：平成30年8月20日～9月14日（19日間）

私は今回のインターンシップで主にスマホアプリの開発を行いました。学校ですでに習っているjavaを理解していること前提でいろんな課題が出されるのではなく、初めてやる言語だったり開発だったり、0からのスタートだったため、最初はわからなくても少しずつ理解していけば大丈夫だと、気負わずに取り組むことができました。

役に立つサイトを見たり教科書をじっくり読んだりして、簡単な部分から理解していきました。担当の方にわからないところを教えて頂き、サポートしてもらいながら課題に取り組んだので、全然できる気がしなかったプログラミングが少しずつ理解できるようになりました。学校の授業の受け方もしっかり見直して、きちんと理解ができるように改善し、これ以上単位を落とさないように頑張りたいと思いました。

他にもたくさんのことを学びました。説明を受けているときや、教えてもらっているときはメモを取ること。この社会人としての常識が私にはなく、何回か指摘されてしまいました。メモを常に取っておかないと、そのとき覚えられたつもりでもせっかく教えてもらったことが抜けるかもしれないし、できていないところも見直せません。仕事においても同じで、お客さんの希望と自分がやろうとしていることの食い違いが生じる可能性もあるので必ずメモは取るべきだと学びました。

また、これから進める勉強や、仕事においてスケジュールを立てることが大事だということもわかりました。どれだけ時間がかかるかをはじめに明確にしておくことで、物事を進めやすくなるし、目標にもなるのでこれからテスト、勉強などもスケジュールをたてて、効率よく勉強したいと思います。システム会社がどんな仕事をするのかも知ることができました。

インターンシップで株式会社Nに行く前までは、システム会社は自分たちで作りたいアプリやwebページを開発して、いろんな人に利用してもらうのが目的だと想像していました。しかし、こんな機能を作ってほしいという依頼が来てから、お客さんの希望に沿ったものを開発するのが仕事だということを初めて知りました。また、SEのイメージはどんよりした空気の中で、目を真っ赤にしてひたすらパソコンに向かって仕事に取り組むイメージでしたが、株式会社Nは、オフィスが明るく、みんなの仲もよくて相談しあいながらよりよいものにしていく、とても仕事がしやすい環境だなと感じました。

今回のインターンシップで学んだマナーや常識、仕事に対する取り組み方等を活かして、これからの就職活動や社会に出てから、一生懸命に仕事に取り組み、立派な社会人になりたいと思います。

未来を見据える

Y大学：経済学部・経営学科・3年

期間：平成29年9月4日～6日（3日間）

インターンシップを通して、会計事務所の仕組みや仕事をする上での心構え、働くということについて多くを学ばせていただきました。初日はまず、事務所の体制をはじめ、業務全般の説明をしてくださいました。従来、会計業務は一企業に担当者が一人つき、全ての業務を一人で行いますが、Y事務所ではそれらの業務を部門ごとに分担しています。部門は、月間のデータ整理や帳簿作成を中心に行う財務支援部、年間の決算業務を担当する決算部、顧客と対話し経営についての相談や提案を行う経営支援部、管理部の4つに分かれており、一つの企業に各部門が関わりあいながら会計業務を行います。こうした分業体制をとることで、仕事の効率化が図られています。同時に、部門間でのコミュニケーションやチームワークが重要になってくること、また、法改正など企業を取り巻くルールや環境は日々変化していくため、常に勉強することが大切であることを教わりました。

続いて、2つの部門で業務を体験させていただきました。初日と2日目にお世話になった財務支援部では、元帳の作成や、出納帳と仕訳帳へのデータ入力を行いました。作成する元帳には工程表が添付されており、綿密なチェック体制が敷かれていました。数字を一つひとつ照らし合わせ、誤りがないうかが確認した上で書類を仕上げていきました。データ入力作業は、Y事務所のグループ会社が開発したソフトを使用して行いました。このときも必ず最後に数字が合うかを確認して作業を完了しました。一つひとつの確認作業は地道なものでしたが、その積み重ねが信頼されるサービスの提供に繋がるのだと、作業を通じて実感しました。

最終日に体験させていただいたのは、決算部の業務です。税金の申告書など決算に関する書類の打ち出しやファイリングを行いました。ここでも数字や書類の並びに間違いがないかを常にチェックしていきました。印象に残っているのは、指導を担当してくださった方の「自分を信用していない」という言葉です。聞いたときは驚きましたが、信用していないからこそ何度でもチェックするという言葉に、とても大切な考え方だと感じました。人はどこでどんなミスをするかわかりません。大丈夫だろうと慢心するのではなく、自分自身を疑うくらい徹底することで、仕事の質を高く保つことができるのだと思います。

全日程を通し、正確性や慎重さが求められることなど、当初のイメージと合致している部分もありましたが、部門内外のコミュニケーションの様子や和気あいあいとした雰囲気など、認識を新たにしました。また、初日に事務所の説明をくださった中で、「今後は未来会計が重視される」というお話がありました。会計の仕事はこれから機械に取って代わられると予想されています。その中で価値を提供できるのは、経営改善や提案など、未来を見る視点です。時代の流れを読み取り、この先の世の中で何が必要とされるのかを考えていく姿勢は、どのビジネスにおいても重要なことであり、私自身もこの考え方を大事にしていきたいと感じました。会計業界の現場で働く方々と業務を共にさせていただき、仕事への姿勢や考え方に触れることができたことは、私の中で非常に貴重な経験となりました。お世話になりましたY事務所の皆様、本当にありがとうございました。